

藤野巖九郎



藤野教授室

あわら市出身の医師藤野巖九郎（1874～1945）は、仙台医学専門学校（現東北大学）で教授を務め、のちに中国の著名な文学者となる魯迅に解剖学を教えました。その際、藤野は自分の講義が筆記できるかと尋ね、講義ノートを提出させて朱筆で添削し、書き落とした部分だけでなく文法の誤りまで訂正してくれたといいます。この添削は毎週行われ、藤野の全講義が終わるまで続けられました。

魯迅は、このことに深く感銘し、藤野を終生の師と仰ぎ、小説「藤野先生」を執筆しています。「藤野先生」は『魯迅選集』に収録されています。



解剖学実習室



日本ではじめて出版された『魯迅選集』

巖九郎の長男恒弥（1919～1945）は、福井中学校（現 藤島高等学校）、第四高等学校を経て東北帝国大学医学部に進み、卒業後内科学教室に入りました。その後、召集されて陸軍の軍医となり、1945年（昭和20）1月1日、父に先立って広島陸軍病院で戦病死しました。巖九郎は、恒弥の死を前にして大いに落胆したと伝えられています。

巖九郎から恒弥への手紙を展示ケースで紹介しています。

1909年（明治42）『仙台医学専門学校在学記念帖』
藤野巖九郎家文書 C0125-00241（当館寄託）